

●第15回日本生理学会将来計画委員会議事録

日 時：平成17年8月27日 13：00～18：00
～28日 9：00～12：00

場 所：自然科学研究機構・職員会館（東岡崎）

出席者：前田信治（委員長）、上坂信宏、久野みゆき、久保義弘、黒澤美枝子、小西真人、辻岡克彦、西田育弘、二科安三、八尾 寛、徳永 太、中島龍一、宮川尚久

欠席者：彼末一之、松尾 理、森田啓之

前回の将来計画委員会において継続審議となっている「日本生理学会執行部の選出について」ならびに「生理学会からの提言」について、今までの議論を踏まえて慎重に検討を進めた。また、執行部選出と関連して、「新執行部体制への移行の手続きについて」を議論した。新たな課題としては、委員から提案のあった「科学研究費補助金審査委員の推薦について」を自由討論の形でとりあげた。その他、若手の会運営委員会の委員の選出について議論された。

日本生理学会執行部の選出方法について

先回の委員会での議論をもとに修正された案が提示され、執行部の選出についての骨子となる点について議論を進めた。以下の内容について修正を加えることで意見の一致を見た。骨子の具体的内容は「日本生理学会の執行部の選出について」としてまとめた。

(1) 会長の選挙は原案通り公選制とすることを確認した。会長候補者は評議員から自薦と他薦により公募し、応募者が無い場合には、常任幹事会が3名以上推薦することとした。公募の推薦者については、特に言及しないこととした。公募による立候補者と常任幹事会推薦者を合わせた候補者リストを選挙人に提示することとした。

(2) 選挙人としては、評議員に限定するか、一般会員まで含めるか、種々議論されたが、ある程度の学会経験もあり、責任を持って投票できる評議員が適当と判断された。また、評議員の学会運営への関与を高める意味でも適当であるとした。選挙にあたっての判断材料として、候補者の略歴（職歴、研究歴、本人の写真、など）、学会での活動状況、学会運

営にあたっての抱負、専門分野と研究活動の概要などが必要とされた。

(3) 会長の任期は、常任幹事の任期に合わせて4年が適当とされた。学会の活動性と新鮮さを維持する上で、2期連続は好ましくないとの結論に至った。

(4) 選挙の結果、会長に地区常任幹事が選出された場合には、該当地区から常任幹事を補充することとした。

(5) 円滑な学会運営を行う上で、会長の任期の1年前に次期会長President-electを選出し、常任幹事会の構成員とすることとした。

(6) 副会長については、種々議論の結果、会長が指名し、常任幹事会で承認するという原案の通りとした。なお、副会長は、その任務の関係上、常任幹事から指名されることが望ましいとした。また、副会長が常任幹事から指名された場合には、該当地区から常任幹事を補充することとした。

新執行部体制への移行の手続き

公選制による会長の選出への移行措置について原案が示され、慎重な検討が行われた。議論にあたって、新執行部体制への移行には常任幹事会の合意ならびに評議員会と総会での承認が必要であること、平成18年3月に4年任期の会長選挙が現行通り実施された場合には新体制への移行が5年後になることなど問題点が示された。可及的速やかに新体制へ移行するための暫定的措置を含めて新体制への移行の概要が議論され、以下の結論を得た。

(1) 新会長が就任するまで1年間会長代行を置く。あるいは、現行制度のままでも会長を選出しても、その任期は1年限りとする。

(2) 平成17年秋の常任幹事会で新執行部体制の将来計画委員会案ならびに新体制移行への暫定的措置案の承認を得る。

(3) 会則の改定を現執行部に依頼する。また、選挙管理委員会には選挙実施のための日程について検討を依頼する。

(4) 平成18年春の常任幹事会で会則の改定ならびに選挙実施の日程について了解を受け、新体制と会則の変更を合わせて総会での承認を得る。

(5) 総会での承認後、会長選挙の手続きに入る。選挙への日程の概要について検討した。

(6) 平成18年秋の常任幹事会で選挙結果が報告され、次期会長から副会長が指名され、承認を受ける。この時点で次期会長と副会長は常任幹事会の構成員となる。

(7) 平成19年春の総会で会長選挙の結果が報告され、新会長と副会長が就任する。

生理学会からの提言について

医学部の生理学教育と研究の重要性に視点を置いている内容が加筆された原案について検討され、若干の修正を加えて承認された。本提言は、将来計画委員会名で「生命の理（いのちのことわり）：生理学教育と研究における問題と提言」として日本生理学会のホームページや日本生理学雑誌への掲載することで一致した。

科学研究費補助金審査委員の推薦について

委員長から科学研究費補助金審査委員の推薦の現状についての説明があり、自由な議論がなされた。生理学会が学術振興会へ審査委員候補者を推薦する

過程で、日本生理学雑誌編集委員、Jpn. J. Physiol. の編集委員と reviewer、学会でのシンポジウムの座長など各分野の専門家の意見も反映してはどうかとの意見があった。学術研究委員会での議論について追加発言があり、引き続き検討を進めることとした。

議論の過程で今後の検討事項として「日本生理学会の倫理要綱」の制定について発言があり、他の学会での倫理要綱を参考にして議論を進めることとした。

若手の会運営委員会の充実について

日本生理学会・若手の会の運営委員会の発足にともない、運営委員の充実を図るために、常任幹事会の各種委員会の委員長に委員会委員として可能な範囲で若手の研究者を加えていただくことが要望された。

議事録への追加

8月27～28日両日の委員会後、「日本生理学会執行部選出について」の議事録の中で、会長の選挙が改革につながるものではないとの問題提起があり、メールによる意見交換がなされた。その結果、会長の選挙は公選制とすることが再確認された。自薦、他薦にて会長候補者の公募を行い、応募者の状況によって常任幹事会が複数名の会長候補者を追加推薦することができること、と変更することで一致した。

(注) 日本生理学会執行部の選出方法についての将来計画委員会案を平成17年12月3日開催の第2回常任幹事会に諮ったところ、会長候補者を自薦と他薦により公募することに疑義が出され、委員会で再検討することとなった。

●平成17年度第2回男女共同参画推進委員会議事録

日 時：平成17年12月3日 10時30分～12時30分

場 所：損保会館（御茶ノ水）

出席者：金子，高松，鈴木，宮坂，小田一望月，下山，持田，水村

報告及び議事

1. 群馬大会におけるシンポジウムの準備状況及び任務分担

宮坂委員より1) 行政側から1名（日本学術振興会の事業部長の大木さんに交渉中），2) 長年任期付きポジションをつないできている人として小田一望月委員，3) 若手の会の松田さん，4) できるだけ女性のポストドク，など，演者の人選が進行中であることが報告された。抄録には，若手の会の了解をえた上で若手の会との共催という形式で登録する予定である。

講演の記録は下山委員，写真は持田委員，参加者へのアンケートは宮坂委員が担当することとなった。

2. 群馬大会におけるポスターの準備について

①大会保育室の利用実績，②アドバイザー制，③企画シンポジウム，④学協会連絡会における活動，についてまとめて掲示。持田委員が担当。当日配布する資料について適当なものがあれば持田委員に連絡する。

3. 若手の会との連携について

①次期の本委員会委員長に，若手の会運営委員会委員を本委員会の委員として入れることを，引き継ぎ事項として伝える。

②若手の会から，次回本委員会にオブザーバーとして参加してもらうよう，申し入れる。

4. 大会保育室

準備状況について委員長より報告。継続的に実施状況を把握していく必要があるため，利用者のアンケート，保育室の視察を行う。これは鈴木委員が担当する。

5. 生理学会の各種委員会における女性委員の比率について

学協会連絡会の第3回シンポジウムの前に学会の委

員会における女性の比率の調査があり，生理学会では13ある委員会のうち8つの委員会には女性委員がいるが，英文雑誌の編集委員会を始め5つの委員会には女性委員がいない。本日午後の常任幹事会において委員改選の折には女性委員の数を増すよう，委員会として要望を述べることとなった。

6. 学協会連絡会の活動について

4月と8月の連絡会については宮坂委員より，11月の連絡会については高松委員より夏の学校の開催を中心に報告が行われた。これに関連して，理科好きの子供を育てる上で，教育系大学の理科系教育をみなおすなど初等教育の教師の理科嫌いをなくすことを考える必要について討論があった。生理学会の関与の仕方は，賛同して参加できるものは参加するという，現状程度で良い，という点で一致した。

10月7日に開催された第3回シンポジウムについては水村委員長が報告した。

7. その他

①2009年に開催されるIUPSの大会において，男女共同参画についてのシンポジウムの開催を提案することとした。その場合開催主体は生理学女性研究者の会（WPJ）が適当ではないか，との発言があり，WPJの会の代表代行をかねている委員長が責任を持って検討してくることとなった。また，どの枠で可能であるか（一般枠？特別枠の設定が可能か？），IUPS大会プログラム委員長の倉智先生に打診することとした。

②10月に急逝された菅原委員の後任は当面選任せずに行くこととした。

●学術・研究委員会議事録

日 時：平成17年12月3日 午前10：30～12：00

場 所：損保会館（御茶ノ水）

出席者：青木 藩，今永一成，大森治紀，小澤滯司，久保義弘（委員長），倉智嘉久，白尾智明，山田武範，
山本 隆

欠席者：伊佐 正，小西真人，丹治 順

議事要旨

1. 今回の委員会より加わるようになった，白尾智明委員（群馬大会プログラム委員長），山本隆委員（大阪大会大会長）を紹介した。両委員については，次期学術研究委員会においても委員会メンバーに加えていただくよう，次期委員長に申し送ることとした。

2. 群馬大会の準備状況について，小澤委員，白尾委員より，(1) 国際化の助となる travel award を実施することとし，応募が寄せられていること，(2) 英語での一般口演を行うこと，(3) YFI シンポジウムと題した若手研究者・外国人研究者を主対象とするシンポジウムを企画していること，(4) named lecture については，今後も継続することを視野に入れて，IUPS 委員会と群馬大会プログラム委員会が合同で企画を行い，田原，萩原，高木記念レクチャーを行うことになったこと等が，報告された。

3. 福岡，札幌，仙台，群馬大会で，進められてきた大会の英語化を振り返るために，群馬大会後，アンケートを行うことになった。実施時期は，本委員会の任期後となるが，実施に向けて本委員会で準備し，Emailにて送付すると共に，大会中にアンケート用紙を配布し，両方から回収することにした。なお，IUPS2009を見据えると，大会の英語化を後戻りさせることは現実的でないため，英語化の是非を問うというスタンスではなく，大会の英語化にまつわる問題点を明確にし，それを解決するための方策（例：地方会のさらなる充実策）を求めるというスタンスで行うこととした。

4. 大阪大会の準備状況について，山本委員より，(1) コアメンバーが決定したこと，(2) 解剖学会，薬理学会との合同開催は，今回断念したこと，(3)

特別講演者を決定したこと，(4) ポスターセッションは午前午後で張り替えとせざるを得ないこと等が報告された。本委員会から，山本委員（大会長）に対し (a) 解剖学会，薬理学会等との相互乗り入れシンポジウムを積極的に企画すること，(b) これまでの通例に従い，プログラム委員会に，若手の会，学術研究委員会等から委員を加え，学会関連のシンポジウムを継続して実行すること，(c) 群馬大会で開始した travel award の実施について前向きに検討することを依頼した。

5. Named lecture の，今後の大会における取り扱いについて議論した。仙台大会で開始された経緯，群馬大会が実施を決定した経緯について，倉智委員，小澤委員が，それぞれ説明した後，議論を行い，常任幹事会に対する以下の提案をまとめた。「日本人の生理学者を顕彰する意味合いを持つ named lecture を行うことの意義は大きい。また，この継続は，IUPS2009 日本大会において，厳しい国際競争の中，日本人の Plenary Lecture 講演者を確保することに対し positive に作用する効果も期待できる。そのため，Named lecture を継続して実施することを提案する。具体的には，仙台大会，群馬大会で行われた (る) 田原レクチャーと萩原レクチャーについては，それぞれ植物生理，動物生理の代表として継続して行い，それと共に各大会の独自色を発揮した Named lecture の実施を検討することを提案する。」常任幹事会において，議論の後，IUPS2009 までこの方針を継続することが承認された。さらに IUPS2009 後も，形式・実施方法を検討しつつ，継続を前向きに検討するべきであるとの意見が出された。

（久保義弘 記）

●第4回日本生理学会教育委員会議事録

日 時：平成17年12月3日（土）10時30分～12時30分

会 場：損保会館（御茶ノ水）

出席者：松尾 理（近畿大）、東 照正（大阪大）、河合康明（鳥取大）、恵良聖一（岐阜大）、
岡田隆夫（順天堂大）、前田信治（愛媛大）、前田正信（和歌山医大）、川上順子（東京女子医大）、
椎橋実智男（埼玉医大）、赤池 忠（北海道大）、渋谷まさと（昭和大）（順不同）

欠席者：有田秀穂（東邦大）

議 長：松尾 理委員長

書 記：渋谷まさと（昭和大）

協議事項

1. コア・カリキュラムに対する対応

今年度より共用試験の本格運用が始まり、コアカリ対応が全国的な取り組みとなった。これに対して教育委員会として対応すべきかどうかを検討した。基礎統合実習を検討するワークショップ、病理学会の取り組み（3年かかってワークショップを定期的に検討し最終報告書をまとめた）、イギリス、アメリカの取り組みなどが紹介された。また、現状のコアカリでは、次世代の統合的な生理学者を育てるには不十分との危機感も多くは多くの生理学会員がもっていることをあらためて認識する一方、コアカリを改訂することが解決につながるわけではないとの意見も出された。生理学の重要性充分を理解し認識している医療人を育成するために、動物を丸ごと扱う実習、コアカリの解釈（「正常な機能」「統合」をどこまでどう説明するかを明確にする）などの必要性が指摘されたが、時間的制約から、次期の教育委員会に引き継ぐこととなった。

2. モデル講義

仙台大会におけるモデル講義のビデオ、スライドファイルが、著作権をクリアした形でuminに生理学会員限定で公開された。MLにより前橋大会の演者を検討してきた結果、渋谷まさと（昭和大）、尾野恭一（秋田大学）、大橋俊夫（信州大学）に決定したことが報告された。聞き役の学生を集める手法として、大会本部へ働きかける／各大学で掲示し、春休みで

帰省している学生に来てもらう／学生の1日参加は無料とする、などの可能性が検討された。

3. IUPS開催へ向けての取り組み

IUPS本大会期中、毎日教育関係のシンポジウムが開催され、IUPS教育委員会がそのプログラムを決定すること、その会議が2006-01-20に開催されるので、それまでに教育関連の希望などを松尾委員長へ連絡することが報告された。また、本大会後に開催される3泊4日のワークショップ候補地や、IUPS教育委員会がプログラム作成をすることなどが報告された。

4. 実習ビデオ

7本の作品が委員会に寄せられており、DVDを作成した。一般公開用に編集する必要性が指摘された。完成品にはタイトルをつけ、委員会の正式のプログラムとして公開することとなった。これにより、作品提供者が履歴書の「学会活動」欄に「教育委員会実習ビデオ教材作成（タイトルつける）」などと謳えることができ、さらなる提供を促進できると結論した。また、次期前橋大会において、DVD playerと会場とを確保し、展示・供覧することとした。

5. その他

将来検討委員会兼任の前田信治委員から、生理学の講座、講義の削減が進んでいる現状に対して、「生理学教育と研究に関する問題と提言」を作成したことが報告された。

以上